

あることならんも男兒は女兒よりも危険にさらさるゝこと多く誘惑せらるゝ場合多きためならん此事は監獄及び感化院にある男子五人に對し女子一人ある事實にても證明するを得べし然も缺點ある女子は其缺點の男子より頗る猛烈なるものなり云々

●黒奴の小兒と暗算 黒奴を教育したる一英人の言に據れば黒奴の小兒は極めて暗算に巧みなる由にて問題を言ひ終るとき直ちに答を與へ其早きと到底考ふるの暇なき程にして白人の小兒には及ぶものなしと云ふ

新刊紹介

●日本文典唱歌

大和田建樹作歌
小山作之助作曲

啓發社發行

日本文典を唱歌の形にして、文法を暗記するに便ならしめんさせ

るもの、唱歌としての價值は言はずともあらん、四十頁九十七節に渡れる歌詞によりて果して文法暗記の目的を達し得るや否や疑はし。(定價一冊拾壹錢寶樹所 姫百合社)

●言文一致

言文一致研究会編纂

言文一致の必要は今更説くを要しない。世人は其必要を認めて、新聞にても雜誌にでもこの種類の文章の載つて居ぬはない位である。本書は二百四十九頁に渡れる袖珍冊子で、分つて緒論、普通用文、手紙文例、雜文、紀事論說文として多數の實例を擧げて居る、時節柄必要な書物だと考へられる(定價金廿五錢 發兌元 大阪東區備後町四、吉岡書店)

●閨秀畫家經歷談

速水不染編

これ當世閨秀畫家十家の經歷談をのせたる袖珍冊子口繪には畫家肖像及畫等十數葉を載せたり。(定價二十五錢)

●家庭の樂

女子の友記者編

讀んで見て「あ、こんなものか」といふ人もあらんが、去りては中々面白し。前者と共に歳暮の送り物には持つてこいなり。(定價二十錢)

●ナイチンゲール

女子の友記者編

西洋傑婦傳の第二編として出でたるもの、慘たる戰場に於ける平和の天使を畫きて餘隙なし。亦十字事業の漸く盛ならんとする際、

是非必讀の書たるべし。(定價二十錢)

●明治才媛歌集

編者同

女子の友愛讀者の歌集なり。各國才媛の文筆活躍。(定價二十五錢)

●話方教授の技拆

横山健三郎著

緒論を言語の發達と國民の開化とに起し、教授の目的より材料の撰擇、方法等に至る所論穩健、細密、小學校國語教授の良參考書たるを失はず。(定價二十五錢以上五種 東京市神田鎌倉町東洋社發行)

●英學新報 第一號

東京神田表神保町三番地 英學新報社發行

女子高等師範講師ペーコン、津田梅子、櫻井鷗村等の諸氏編輯せらるゝ由。從來此種の雜誌少からざれども、本誌の如き体裁整ひたるは少なし。語學教師生徒に取りて唯一の机上の友なるべし(毎月二回 一冊八錢 發賣所同所東京堂)

新刊雜誌

- 學生俱樂部 第二卷第二 育 成 會
- 群星 第二卷第一 同 上
- 新文 第一卷第七號 言 文 一 致 會
- 婦人新報 第五四號 婦 人 新 報 社
- 教育時論 第五九五、六、七、八號 開 發 社

- 女子の友 第百〇二、三號 東 洋 社
- 苦學界 第八號 苦 學 社 出 版 部
- 女鑑 第二四〇號 國 光 社
- 東洋哲學 第八篇第一一號 東 洋 哲 學 會
- 姫百合 第四卷第四 姫 百 合 社
- 東京教育時報 第一四號 東 京 市 教 育 會
- 教育學術界 第四卷第一號 同 文 館
- 家庭 第一一號 家 庭 發 行 所
- 淨土新報 第四五八號 淨 土 新 報 社
- 婦女新聞 每號 婦 女 新 聞 社
- 六合雜誌 第二五八號 日 本 婦 女 協 會
- 日本の小學教師 第三卷第三五號 弘 道 會
- 大八洲雜誌 卷百八四 國 民 教 育 社
- 考古界 第一篇第五號 大 八 洲 館
- 新著月刊 第一卷第三號 考 古 學 界
- 日本婦人 第二四號 全 發 行 所
- 婦人衛生雜誌 第一四四號 帝 國 婦 人 協 會
- うらにしき 第一〇九號 大 日 本 婦 人 衛 生 會
- 哲學雜誌 第一七七號 尚 桐 社
- 日本婦人新聞 第一一號 哲 學 雜 誌 社
- 衛生談話 第一〇號 日 本 婦 人 新 聞 社
- 心な 第一〇號 通 俗 衛 生 談 話 會
- 牟婁新報 每號 大 日 本 女 學 會
- 牟婁新報 每號 牟 婁 新 報 社

● なんな 第十一號
 ● 健康の深 第七號
 ● 遊戯雜誌 第二號

大日本女學會
 同 社
 日本遊戯調查會

會報

幹事會 十一月二十七日女子高等師範學校附屬幼
 稚園に於て開會來十二月七日午後一時三十分より
 開くへき第二十三常會の事につきて議す出席者中
 村主幹、清水、野口、雨森、林、松村、稻石、羽
 田、東の九氏なりき

入 會

東京の部

下谷區
 牛込區神樂町二ノ十七
 京橋區新榮町四ノ二
 東京府女子師範學校
 女子高等師範學校
 地方の部
 新潟縣女子師範學校

根岸小學校附屬幼稚園

關谷 いま
 吉田 たみ
 神通 せき
 齋藤 清太郎
 村山 いく

東京府北豊島郡南千住元通新四一
 大分縣下毛郡中津町字古金谷ノ丁
 富山縣富山市總曲輪
 秋田縣南秋田郡土崎小學校
 靜岡縣駿東郡玉穗村字グミ澤
 大和國御所町幼稚園

改 姓

轉 居

山梨縣北巨摩郡江草村へ
 臺灣臺北縣臺北石防街一丁目廿二番戶並木函方へ水
 本郷區龍岡町三十四番地へ

會費領收 自明治三十四年十月廿五日 至同 十一月廿五日

一金二拾錢	自三十四年十一月 至同 十二月	尾崎 跡巳
一金五拾錢	自三十四年十一月 至三十五年三月	相馬 宗高
一金七拾錢	自三十四年十月 至三十五年四月	瀧澤 よう
一金八拾錢	自三十四年九月 至三十五年四月	後藤 いさ
一金壹圓	自三十四年三月 至三十五年六月	矢島 させ
一金壹圓拾錢	自三十四年十一月 至三十五年九月	村山 いく